

巨摩郡

〔續日本紀二十九〕神護景雲二年五月辛未、甲斐國八代郡人、小谷直五百依、以孝見稱、復其田租、終身

〔甲斐國志提一〕郡名

一 巨摩郡略 按ニ巨麻今作摩駒ナリ、地多産駒馬、因爲郡名、風土記有巨摩鄉今屬北山及遠見、木賊

川ハ白峯ノ下ニ在リ、今云能呂川、其西大山列岳十數里ニシテ人跡ナシ、信州伊奈郡ノ界トス、小

田谷在西保蓋、自玉諸川直徑シテ到于此、古ハ山梨郡ノ界ナリ、川今以荒磐橋ハ今云繩橋、是ナルベ

シ、地屬駿州、長貫村ヨリ内房村駿河風土記ニ作内富、傳ヘ云フ、古時ハ磐石ノ下、不盡川ノ

水伏流セリ、因所名ナリ、後ニ磐橋崩レ落テ、以藤蘿造橋トナリ、妙壽寺山未詳、蓋金峯ノ北面ニ有

藥師岳、信州佐久郡ノ界トス、亦八嶽ノ西有大門嶽出中山道、舊本州域内ナリシト、今ハ屬諏訪郡、

界筋ト稱スル地ノ續ナレバ、若此等ゾ廢寺ノ遺蹤ナランガ、亦此嶽ノ東根場ノ邊ニモ廢邑ノ

名アリ、

〔續日本後紀四〕承和二年四月丙子、甲斐國巨麻郡馬相野空閑地五百町、賜一畝武部卿葛原親王、

〔甲斐國志提一〕郡名

一 都留郡和名抄云豆 連葛トハ富士ノ山尾北ヘ長ク延テ、綿連如蔓、葛然リ、方言、山ノ尾づる尾さ

キト云、後人代ルニ以鶴字爲嘉名本郡ニ有桂川、方言桂葛ノ訓相、大田川ハ川口ノ南ニ太田和

村アリ、古昔八代郡ノ分界充之乎、今適知シ難シ、早女坂、武田牧共未考、阿曾谷ハ今ノ明見村ニ湖

アリ、阿曾ノ海ト云、義ナルベシ、肥後有阿蘇山、信濃ニ有淺間山、皆燒煙立昇リ、恐シク淺マ、文朝

日曾雌村アリ曾雌氏所出ナリ、按ニ曾雌ハ於曾之ノ、此等ノ地名ニ由レルナランカ、

〔三代實錄二十一〕貞觀十四年三月廿日庚寅、甲斐國都留郡大領外正六位上矢作部宅雄、少領外從

八位上矢作部每世、賜姓矢作部連、

〔夫木和歌抄十四〕家集中宮御歌合、翫菊といふことを、

權大納言長家卿